

令和5年度 後期 学校評価集計結果

文責：八巻 隆介

4：そう思う、3：ややそう思う、2：あまりそう思わない、1：そう思わない ■前回比-3%以上 ■前回比+3%以上

No	評価項目(保護者用文言)	対象	4	3	2	1	肯定	否定	前期前	前期否	項目考察
1	生徒にとって学校生活は楽しい。	教職員	28%	61%	11%	0%	89%	11%	100%	0%	「楽しい」と感じる瞬間は、個々により異なるが、共通していることは、「主体的」であるということだと思っている。そのためには、受け身ではなく、自身自身で楽しい学校生活にする姿勢が必要だと考える。
		生徒	52%	39%	8%	1%	91%	9%	89%	11%	
		保護者	40%	40%	16%	5%	80%	20%	88%	12%	
2	学校は、学校教育目標達成のための努力を行っている。	教職員	56%	44%	0%	0%	100%	0%	100%	0%	学校教育目標のキーワードである「自立」を育むためには、暗に生徒たちに「任せる」のではなく、今まで以上に目的・目標を意識させながら、自治的諸活動を実施することが大切である。
		生徒	40%	47%	10%	3%	87%	13%	87%	13%	
		保護者	42%	44%	14%	0%	86%	14%	92%	8%	
3	光中学校には、自慢できるものがある。	教職員	39%	44%	17%	0%	83%	17%	71%	29%	自分の学校に誇りをもつためには、生徒一人一人の学校生活が充実していることが必要不可欠である。学校の特色が生徒の成長につながるよう、一層の努力が必要である。
		生徒	36%	49%	11%	3%	85%	15%	87%	13%	
		保護者	32%	40%	25%	2%	72%	28%	75%	25%	
4	学校は、学校教育目標「自立」を意識した教育活動が行われている。	教職員	39%	61%	0%	0%	100%	0%	93%	7%	教職員は、全ての教育活動において「自立」を意識している。すぐに成果は表れないかもしれないが、生徒会活動等で生徒発信による具体的な活動が見られるので大いに期待している。
		生徒	48%	45%	6%	1%	93%	7%	92%	8%	
		保護者	38%	45%	18%	0%	82%	18%	93%	7%	
5	学校は、生徒や学校の様子を学年だよりやホームページ等でよく知らせている。	教職員	39%	61%	0%	0%	100%	0%	93%	7%	各種たりや諸連絡をスクリーンで配信しているが、生徒の活動の様子や学校生活等について、今以上に積極的に情報を発信するとともに、内容の充実を図っていく。
		生徒	44%	49%	7%	0%	93%	7%	92%	8%	
		保護者	66%	33%	1%	1%	99%	1%	93%	7%	
6	学校は、挨拶をきちんとできるように指導している。	教職員	67%	33%	0%	0%	100%	0%	79%	21%	学校・地域全体の意識が高まり、光中学校に関わるすべての人が笑顔になるためには、場に応じた挨拶が必要である。挨拶することを目的とするのではなく、「何のために」をより意識させていきたい。
		生徒	65%	32%	2%	0%	97%	3%	98%	2%	
		保護者	55%	31%	14%	0%	86%	14%	90%	10%	
7	先生は、生徒のことをよく理解しようと努力している。	教職員	61%	39%	0%	0%	100%	0%	100%	0%	毎回、我々教職員にとってこの項目の評価はとても重い。「目の前の生徒たちが自分の子どもだったら」等を常にイメージし、保護者と共に寄り添った指導・支援を継続していく。
		生徒	53%	40%	7%	0%	93%	7%	91%	9%	
		保護者	55%	31%	14%	0%	86%	14%	87%	13%	
8	先生は、子供の特性に合わせ、個に応じたきめ細やかな支援を行っている。	教職員	28%	61%	11%	0%	89%	11%	100%	0%	「教育は人なり」。先生方の生徒を想う気持ちは、時間の長短はあるにせよ、必ず生徒に通じると信じている。そして、生徒たちの健全な成長には、保護者や地域の方々との連携が必要不可欠である。
		生徒	38%	45%	15%	1%	83%	17%	81%	19%	
		保護者	40%	36%	21%	3%	76%	24%	83%	17%	
9	学校は、いじめを許さない雰囲気がある。	教職員	72%	28%	0%	0%	100%	0%	100%	0%	生徒には学ぶ権利がありますが、人を傷つける権利はありません。いじめは絶対に許さない気概をもち、今後も学校全体が温かい空気感に包まれ、生徒一人一人が安心感をもって生活できる場にしていく。
		生徒	34%	48%	17%	1%	82%	18%	79%	21%	
		保護者	38%	40%	17%	5%	78%	22%	77%	23%	
10	先生は、子供が困っているときに相談にのってくれる。	教職員	50%	50%	0%	0%	100%	0%	100%	0%	我々大人にも中学生時代があり、思い悩んだ経験があるはず。子供たちのSOSを見逃すことがないよう、家庭だけではなく、学校もSOSを出せる場所であるよう、相談体制を整えていく。
		生徒	52%	42%	5%	0%	94%	6%	92%	8%	
		保護者	48%	35%	14%	3%	83%	17%	85%	15%	
11	学校は、命を大切にす心や社会のルールを守る態度を育てている。	教職員	72%	28%	0%	0%	100%	0%	100%	0%	「学校のルール=社会のルールやマナー」となるよう、生徒自身が「主体的」に行動できるように、今まで以上にルール、マナー、モラル等様々な角度から生徒の心を醸成していく。
		生徒	67%	31%	1%	1%	98%	2%	96%	4%	
		保護者	56%	33%	10%	2%	89%	11%	90%	10%	
12	学校は、基本的な生活習慣を身につけさせようと努めている。	教職員	44%	56%	0%	0%	100%	0%	100%	0%	学校での諸活動の充実、基本的な生活習慣が土台となっている。引き続き、家庭教育の充実を図るとともに、地域と連携しながら、継続的な指導を進めていく。
		生徒	49%	45%	4%	1%	95%	5%	91%	9%	
		保護者	58%	35%	7%	0%	93%	7%	92%	8%	
13	学校は、環境美化活動やパトロール等、保護者と連携した活動に取り組んでいる。	教職員	22%	67%	11%	0%	89%	11%	79%	21%	保護者の皆様におかれましては、交通安全指導を実施していただき、誠にありがとうございます。PTA活動を縮小する地域及び学校が増加する中、光中学校のPTA活動の在り方も再考する必要があります。
		生徒	43%	45%	11%	2%	87%	13%	86%	14%	
		保護者	60%	37%	2%	1%	97%	3%	93%	7%	
14	学校行事は、楽しく充実している。	教職員	50%	50%	0%	0%	100%	0%	100%	0%	全ての学校行事に共通することは、『全員が楽しく』であるため、肯定率が100%にならない限り、満足することはない。引き続き、全て教育活動のつながりを意識し、よりよい行事にしていきたい。
		生徒	55%	36%	7%	1%	92%	8%	94%	6%	
		保護者	59%	33%	6%	2%	92%	8%	92%	8%	
15	部活動は、生徒にとって充実している。	教職員	28%	56%	17%	0%	83%	17%	100%	0%	令和4年12月に「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」が示され、部活動の意義について再考が必要である。地域移行に関しては注視していく。
		生徒	60%	25%	3%	12%	85%	15%	89%	11%	
		保護者	50%	32%	14%	4%	82%	18%	85%	15%	
16	学校は、生徒の豊かな心を育もうと努力している。	教職員	61%	39%	0%	0%	100%	0%	100%	0%	他人を思いやる心、生命や人権を尊重する心、自然や美しいものに感動する心、正義感や公正さを重んじる心、勤労観・職業観など、情報モラルを含め、引き続き教育活動を通して育成していく。
		生徒	64%	32%	3%	0%	96%	4%	96%	4%	
		保護者	51%	33%	12%	4%	84%	16%	88%	12%	
17	学校は、自らの生き方や進路について、真剣に考える生徒を育もうとしている。	教職員	50%	50%	0%	0%	100%	0%	93%	7%	キャリア教育が高校選択だけでなく、社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てる。中学校3年間で、今後の人生の礎となるよう、少しでも悔いを残さないよう今を大切に生活させる。
		生徒	59%	27%	11%	3%	86%	14%	85%	15%	
		保護者	50%	32%	15%	4%	81%	19%	82%	18%	
18	先生は、授業に集中させる工夫や指導をしている。	教職員	50%	50%	0%	0%	100%	0%	93%	7%	GIGA端末の活用が当たり前になっている中、発問の内容や学び方、自分の言葉でまとめを書く等、今まで以上に授業の質を高める必要がある。また、生徒指導とのつながりもより意識しながら実践していく。
		生徒	42%	49%	9%	1%	91%	9%	88%	12%	
		保護者	35%	39%	23%	3%	74%	26%	83%	17%	
19	授業がわかりやすい。	教職員	75%	25%	0%	0%	100%	0%	86%	14%	求められる教員像が多様化する中、授業改善は、我々教員にとって大きな課題であり、自己研鑽及び多くの研修を実施している。生徒の肯定率が微増したことを心の支えに、学び続ける教員集団でありたい。
		生徒	36%	59%	4%	1%	94%	6%	89%	11%	
		保護者	27%	44%	24%	6%	70%	30%	79%	21%	
20	先生は、家庭学習を計画的にできるよう指導している。	教職員	33%	67%	0%	0%	100%	0%	79%	21%	ICTの活用も含め、家庭学習のあるべき姿は世の中にあふれており、個に応じた学習の内容・形態がある。様々な角度から情報を収集し、実態に応じた身のある家庭学習を模索していく。
		生徒	36%	42%	16%	6%	78%	22%	71%	29%	
		保護者	35%	38%	22%	5%	73%	27%	71%	29%	
21	学校は、学力向上に向けて取り組んでいる。	教職員	72%	28%	0%	0%	100%	0%	100%	0%	「学力」とは何か。高校入試の現実。生徒たちにとって、社会に出たときに役立つ学力とは…。点数だけに固執することなく、教えるだけではなく、自ら学ぶことができるよう、引き続き授業改善に尽力していく。
		生徒	48%	47%	5%	0%	95%	5%	94%	6%	
		保護者	42%	36%	16%	6%	79%	21%	80%	20%	
22	学校は、生徒活動を通して、生徒に自立や自治の力を育もうとしている。	教職員	39%	44%	17%	0%	83%	17%	93%	7%	上記にもあるように、少しずつ主体的な生徒会活動が増加していることは大変喜ばしいことである。目的・目標がブレずに、教員等がお膳立てをしすぎず、長いスパンで計画的に実施していきたい。
		生徒	42%	48%	10%	0%	90%	10%	89%	11%	
		保護者	49%	34%	14%	2%	83%	17%	88%	12%	
23	学校は、読書活動の推進に向けて取り組んでいる。	教職員	6%	17%	61%	17%	22%	78%	29%	71%	デジタル化が進み、世の中が大きく変化する中、読書活動においても検討が必要である。以前実施していた読み聞かせ等も視野に入れ、「不易と流行」を意識しながら、地域人材等を活用していきたい。
		生徒	18%	22%	37%	22%	40%	60%	48%	52%	
		保護者	38%	33%	23%	6%	71%	29%	77%	23%	